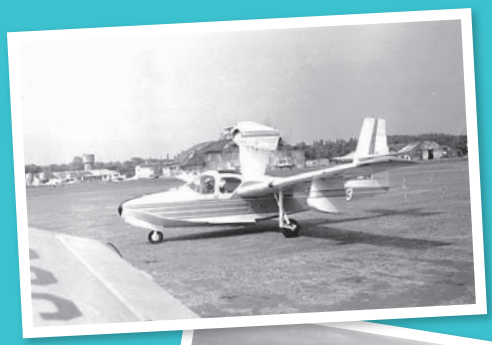
JFA会報 | エアロンカ（隔月発行）

AERONCA

【Japan Flying Association / JFA】 since1953

2023年7月1日発行　第594号

発行所
一般社団法人 日本飛行連盟
〒105-0004
東京都港区新橋1-18-1航空会館
TEL: 03-6268-8755
FAX: 03-3502-0680
E-mail: info@jfa1953.org
HP: http://jfa1953.org



日頃目にすることがない「飛行艇」
遠くに見えるのは昔の調布飛行場か・・？

Flying boat

TABLE OF CONTENTS

- 赤十字飛行隊 …… P2~3
- 北宇都宮駐屯地開設50周年記念行事 …… P4
- お嬢さん絶対大丈夫 …… P5
- 技能証明学科試験CBT化の概要(速報) …… P6
- 自家用運航の安全確保　奥貫　博 …… P7
- JFAサロン …… P8

赤十字飛行隊

Message -メッセージ- 隊長・副隊長より

機長として点検と備え

先般、起きた自衛隊のヘリ事故については、原因が確定しておりませんが、エンジン出力低による
ものではないかと報道されています。
故・高橋淳、前隊長が良く言っていた「常に８０%を心がける。空では思いもよらないことが起きる。
１００%の力を出していたらトラブルに対処できない」「８割を完全にしておき、残り２割の余裕を
保持しろ」危険予知する余裕をもたせろと・・。この２割が常にエマージェンシーを想像し実施する
という心構えに通じるものと思います。事故はいつ起きるかわかりません。危険箇所も毎日変わる
かもしれません。今回の事故を教訓に何事も起こりうるものとして、飛行前点検と航空法を守って
安全運航を続けていきましょう!!

機長は常にエマージェンシーが突然発生するという心持ちで、運航しよう

航空機の運航前の基本点検は、あらゆる点に気を抜かず綿密に実施すること

熊本支隊　5月25日(木)　2023年度NTTドコモ九州グループ総合防災訓練

JA44AC ロビンソン式R44型	：三好恒紀、椙松啓介
時　間	：２＋６

昨年7月に(株)NTTドコモ九州支社と締結した「災害時における被災者支援のための相互協力に関する協定」に伴い表記訓練に参加しました。地震等による停電等の影響で孤立した五ヶ瀬町へ避難所支援を行うため空路を使い支援物資の輸送を行う物です。物資輸送の他に電力・光ケーブルの状況や崖崩れ、道路状況も把握可能です。被災状況を周辺自治体、他機関にも提供することでより全体的な被災者支援にも貢献出来ると思われます協力関係は昨年からですので引き続き協働を深めて参ります。

長崎支隊　総合防災訓練

令和5年5月21日(日)諫早市総合防災訓練

JA3837 セスナ式172N型	：松本高明、指宿浩典、無線奉仕団２名
時　間	：０＋30

赤十字無線奉仕団との非常無線通信、上空からの情報収集訓練：諫早市八天町本明川河川敷

令和5年5月28日(日)長崎県総合防災訓練

JA3837 セスナ式172N型	：松本高明、指宿浩典、無線奉仕団２名
時　間	：２＋35

赤十字無線奉仕団との非常無線通信、上空からの情報収集訓練：対馬市峰町志多賀「峰港用地」

訓練内容:前回よりスマホを使ったライブ映像の配信、アマチュア無線周波数を使用し、山頂のリピーターを介して災害対策本部へ静止画の伝送訓練を実施。災害対策本部とはアマチュア無線で状況報告をし、無事に訓練を終了いたしました。
今回の配信は、無料アプリ「Prism Live Studio」を使用してのYouTube Live 配信です。Prism Live Studioを検索して入力すれば、入力して24時間後から使用ができます。Prism Live Studioのライブ映像はYouTube動画サイトにも残りますので、後からの確認も可能です。我々はいち早く現場へ行き、現状報告を防災関係だけでなく、被害が出そうな地域の方にも見ていただければ、対策,避難準備等に貢献ができるのではと考えております。
全国の隊員の中にも、ネット環境に詳しい方がいらっしゃるでしょう、情報交換をできる場をお願いしたいと思っております。

熊本支隊　令和5年5月25日(木)　令和5年度「大規模災害時支援活動協定」意見交換会に参加

場所：熊本県庁地下大会議室　主催:熊本県土木部土木技術管理課

災害に向けての体制や取り組み状況について各団体と、県の各地域の土木部等、計52名が一堂に集まり、大規模災害支援活動について意見交換をいたしました。災害発生前の連絡体制、協力体制、情報交換の確認と、災害発生後の県災害対策本部の設置から支援団体への支援活動の要請、その他応急措置、活動後の報告に至るまでの一連の作業を確認しあいました。熊本支隊は県と災害時の支援活動の協定を締結しております。これからも積極的に参加し、参加者との相互理解を深めてまいります。

参加者　熊本支隊　新永隆一

愛媛支隊　令和5年4月29日(土)令和5年二宮忠八翁飛行記念大会

雨天のため参加は中止した。(スタンバイ)

JA3828セスナ式R172K型	：米山徹朗、上岡良久、髙橋浩	：時間 ０＋５
JA3601富士重工式FA-200-160型	：吉野浩三、藤田浩二	：時間 ０＋５
JA3630富士重工式FA-200-180	：檜垣直彦、上野雅樹	：時間 ０＋５

イベント ◆ report

陸上自衛隊 北宇都宮駐屯地開設50周年記念行事

文・写真　垣内　宗一

さる2023年5月27日（土曜日）に宇都宮飛行場がある陸上自衛隊宇都宮基地にて「北宇都宮駐屯地開設50周年記念行事」が開催され、自衛隊、米軍、使用事業機などとともに、AOPAや日本飛行連盟など合計6機もご招待をうけて盛大に式典が開催されました。私も日本飛行連盟所属として、大利根飛行場からフライインの3機（C172x2、G109X1）に搭乗して当日参加させていただくことができました。

当日は初夏を思わせる好天に恵まれ、朝早くから宇都宮（RJTU）に各機が集まりました。

大利根組は朝6時すぎに大利根飛行場へ集合。離陸すると宇都宮は実に近いもので、ほんの30分ちょっとで到着です。タワーの指示で着陸と、会場となるスポットまで移動し、機体の並びを確認して開場時間を待ちます。

当日は土曜日でしたが開場と共に多くの方で賑わい、飛行連盟の関係4機に加えてAOPAからご参加のホンダジェット、DA-42にもたくさんの見学の方をお迎えできました。

中でも操縦席を開放してお子様の記念撮影を行ったG109は大人気。暑い中でも行列が絶えず、たくさんのご見学者（親子連れ）の皆さんをご案内することができました。意外に思ったのはご来場皆様のご意見として、飛行機もヘリコプターもそれぞれ良いとはいえ、この「モーターグライダー」というのがひときわ珍しかったようで、細長い翼やなんとなく丸みを帯びたデザインがかわいい、などの感想をいただきました。

会場では北宇都宮駐屯地らしく、各種ヘリコプターによる展示飛行が盛んに行われ、自衛隊グッズなどの売店や和太鼓の披露など50周年にふさわしい賑やかな基地祭となり、大変多くの方で賑わいました。

14時過ぎ、展示機が三々五々帰路につきます。見学者の皆様が見守る中で1機、また1機と離陸してゆきました。飛行連盟からの参加機もモーターグライダーG109を先頭に、観客の皆様に手（翼？）を振りながら一路大利根に向かって出発。復路もほんの40分程度で無事に大利根飛行場に着陸しました。

我々一般のパイロットにとって、自衛隊の飛行場はなかなか行く機会がありませんので、こういったお誘いは大変ありがたく、こういったイベントが初めてのクラブ員さんを筆頭に、全員がとても楽しい1日を過ごすことができました。

なお余談ですが、今回大利根からの参加メンバーのうち3名が訓練生、しかも大利根以外の飛行場で離着陸したのが初めてということでした。つまり、この皆さんはログに記録されたはじめての4レター付き飛行場が「RJTU」という非常に珍しい経歴となったわけです。きっとこの先も今日の事は忘れられない思い出になったのではと思います。

最後に、この機会を作っていただいた北宇都宮駐屯地および日本飛行連盟、他関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。

日飛連参加機　大利根/C172R,C172P,G109　本田エアポート/ PA-28R-201T

JA3946

JA09AW

お嬢さん 絶対大丈夫

アメリカの空港で、今年３月に起きた機体トラブルの話。(ダイヤモンドDA-20機)

ある女性が一人で操縦中に、機体の前輪が脱落するという機体異常の事態が発生しました。その事態を近くで飛んでいた別の機体が発見し、管制塔に一報するところから、この事態が展開していきます。女性を無事に着陸させるまでの話がYouTubeにアップされています。女性操縦者＆脱落を発見したパイロット＆管制官との３人との無線のやりとりがまるで映画のよう。そこに関わる人たち全員が機体が無事に着陸できるよう、無線でサポートをします。脱落を発見したパイロットは教証をもつビジネスジェットのパイロット。着陸に向かう女性操縦者とのやりとりから、訓練生であることに気づき、管制官に「機体を手助けしたい・・」と申し出ます。管制官は、ここはプロのパイロットに任せて後方支援に徹するのが良策と考え、GOサインを出します。プロパイロットは、彼女の経験や心情を思いはかり緊張させないようにアドバイスを送り続けます。

空港の特徴から、無線のやりとりも鮮明に聞き取れるとは限られない中、不整地着陸をしなければなりません。訓練生は安全な着陸ができるようアドバイスを受けたことを頭に描きながら、何度か試しを行います。「よし、お嬢さん操縦桿をきっちりと引き切ってスムースに・・、絶対大丈夫」この言葉に導かれ勇気づけられた訓練生。眼下の飛行場では救急体制も万全の様子。彼女、試しは行っても今度こそ本当の着陸。接地間近はいかほどのドキドキ感だったのか、容易に想像がつきます。結局、機体は損傷しましたが、訓練生は無事に見事この危機を乗り越えました。訓練生はソロになりたて、しかも前日に不整地着陸の訓練を受けたばかりであったそうです。その知識も自らの助けとなりました。同空港で待機せざるをえなかった他機も、この三人に対して素晴らしい働きだったと、賞賛を送っています。管制官の言葉がこれまた良い・・「私たちはこの仕事のためにいるのです」

事故は残念ですが、緊急事態を必死の連係プレーで乗り切った素晴らしさがよく分かる動画です。

翻訳されたイメージ動画

機場空論
【感動の航空無線】
訓練生一人の機体で異常

https://www.youtube.com/watch?v=gAc_Hx4VNAY

動画

TODAY
Young pilot guided back to runway after losing landing gear

https://www.youtube.com/watch?v=8Jk_ZZ8IMsY

記事作成の参考にしたサイト

技能証明学科試験

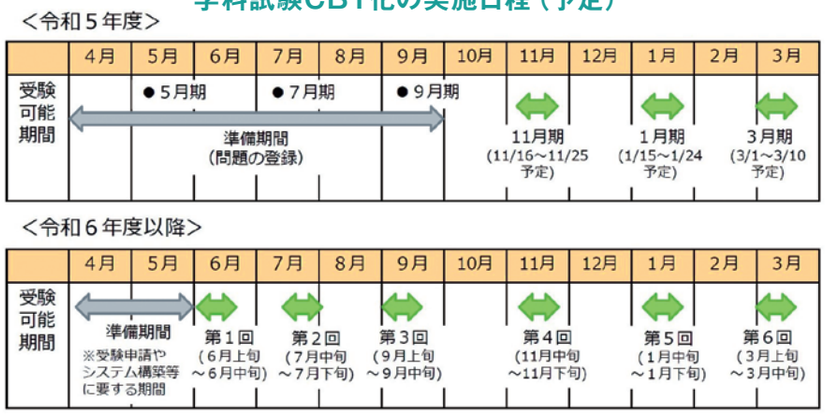
CBT (Computer Based Testing) 化の概要(速報)

これまでの航空従事者技能証明等学科試験は、定められた日程での筆記試験で行われ、また試験会場も全国2~8箇所と、受験機会が限られていました。これに対し、コンピュータを用いた、CBT: Computer Based Testing方式では、一定の期間中の、都合の良い日時と場所での受験が可能となり、受験者は、全国都道府県にある試験会場の中から、空いている個別ブースを予約し、受験することが出来るようになります。また、災害時や急用等で急遽受験できなくなっても、別な日に振替えての受験(期間内であれば、受験日の3～4日前までに会場・日時のみ変更可など)が可能となります。更に、試験終了後、数時間で合否がメールで速報されます。尚、受験料は試験時間に応じた配信費用(2200円／1コマ45分)が増額となります。
このような、学科試験の受験を画期的に便利にするCBTが今年から実施の予定とのことですので、その概要をお知らせします。

学科試験CBT化と従来学科試験の比較(2023.6.20現在)

項　目	CBT化以降の学科試験	従来の学科試験	備　考
受験回数	全資格年6回 (CBT化されない資格＊1は除く)	年2回～6回 (資格等によって異なる)	＊1:飛行船関係、航空士/機関士等
公表の方法	インターネットによる試験期日等の公表	・官報による試験期日等の公表	
試験時期	・6月～3月の間＊2 ・試験期間は毎回10日間程度	・奇数月に実施日を定めて実施 ・各回1日、又は2日	＊2:令和5年の日程は下図参照
試験会場	・全国140箇所(変動可能性あり)の、試験実施会社の試験会場(個別ブース)＊3	・全国で2~8箇所の試験会場(試験期によって異なる)	＊3:各都道府県に1つ以上
複数資格の受験	・同一試験期に複数の資格(例:事業用操縦士と計器飛行証明)の受験が可能	・同一試験期に複数資格の受験は不可能	
試験の結果	・試験終了後、数時間で速報メール(＊4)	・後日連絡	＊4:正式には後日
問題と解答の公表	・問題と解答の公表はしない。＊5 ・問題シラバスならびに一部の問題をHPに例題として公表することを検討中	・航空局のWEBサイトで公表。 ・試験問題の持ち帰りが可能	＊5:出題は受験者毎に異なる

学科試験CBT化の実施日程（予定）



出典:2023.6.20 航空局乗員政策室　学科試験CBT化における業界関係者への説明会(第2回)

自家用運航の安全確保

奥貫　博

昨年4月、単発小型機が九州の有明湾に不時着して2名が死亡した事故の調査報告書が、今年の3月に公表になりました。

この事故は、阿蘇場外離着陸場（以、阿蘇場外）を出発した機体が、約20km南へ向かった後、そこから北東に約50km飛行して、別府湾近くに達し、進路を西に変えて、阿蘇場外の約40km北側を通過して九州を横断し、有明湾に達した時点で燃料が切れて不時着と言うものです。

離陸から不時着までは、約2時間の飛行でした。また、その飛行中、管制機関等への無線コンタクトはありませんでした。

機長は、総飛行時間23,940時間、操縦教官歴55年の、年齢80歳の方で、練習生は総飛行時間5時間の67歳の方でした。

気象は良好で、十分な時間もあり、運輸安全委員会の事故調査報告の原因の項にも、「適切な緊急対応ができないまま飛行を継続した理由については、明らかにすることはできなかった。」とありますように、何とも不可解な事故であったのですが、調査報告書に記載されている様々な問題点等を、以下に列記してみたいと思います。

- **フライトプランを通報していなかった。**
- **操縦練習飛行の許可を得ていなかった。**
- **航空図を携行していなかった。**
- **周辺の地形慣熟飛行は１回のみであった。**
- **操縦教育実施基準を満たしていなかった。**
- **管制機関等へのコンタクトがなかった。**
- **不時着水直前まで支援を求めてなかった。**
- **VOR受信高度以下での飛行であった。**
- **航空身体検査の自己申告の不備があった。**

これらの状況に対し、事故調査報告書の再発防止策には、以下の記述があります。

「本事故の発生には様々な要因が関与している可能性があるが、出発前の必要な準備として、地形慣熟、燃料搭載、航空図及び緊急時対応手順について十分な確認を行った上で、飛行計画を策定し通知するなど、安全運航のための既存のルールを確実に遵守することにより、同種事故の再発は防止できるものと考えられる。」

阿蘇場外離着陸場

空の安全に必要なことは、飛行に際し、必要なことの全てが、確実に準備され、実行されることですが、この事故の場合、機長の総飛行経験は豊富であったとしても、小型機の有視界飛行のために必要な備えが全て行われていたかと言えば、不十分な点があったようです。

事故調査報告書の原因の項には、航空図を携行していなかったことの関与についての記載があります。縮尺1/50万の区分航空図の携行があれば、そこには出発地の阿蘇場外も記載されていますし、周辺の阿蘇山等からの位置関係判断や、VORの利用、管制機関等へのコンタクト等、様々な手段が可能であったと考えられます。

この事故における問題は、これらの、有視界飛行における、ごく基本的な備えがない状況で、この飛行が行われてしまったところにあると思います。

現在、「自家用操縦士の技量維持方策に係る指針」（国空乗第2077号、平成15年3月28日）に基づく航空安全講習会、及び、2年に一度の特定操縦技能審査が実施されていますが、それにもかかわらず、今回の例のような事故は発生しています。

いくら飛行経験があったとしても、飛行の際には、必要なことが全てきちんと行われているかについての確認が必要です。

空の安全確保については、その機長個人としての認識と共に、飛行に関わる全ての仲間で安全を支える、空の安全文化の定着が重要と思います。

JFAサロン

一般社団法人 日本飛行連盟

第71回定時総会

表記の定時総会は定款第4章第21条により書面決裁とした。
第1号議案　令和4年度事業報告及び決算報告‥‥承認

貸借対照表

令和4年度 貸借対照表

令和5年 3月31日

（単位：円）

資産の部		負債の部	
（流動資産）	10,710,584	（流動負債）	1,433,887
現金預金	10,506,404	未払金	135,777
未収金	131,030	前受金	1,160,000
立替金	−	預り金	14,810
前払費用	73,150	未払消費税等	123,300
（固定資産）	3,221,436	（固定負債）	550,000
（1）特定資産		預り保証金	550,000
飛行場整備積立金	−	負債の部　合計	1,983,887
特定資産合計	−	正味財産の部	
（2）その他固定資産			
建物附属設備	−		
構築物	3	正味財産	11,948,133
車両運搬具	1,737,834		
什器備品	415,940		
電話加入権	289,659	繰越利益	12,866,368
出資金	250,000		
差入保証金	528,000	当期利益	−918,235
その他固定資産合計	3,221,436		
		正味財産の部　合計	11,948,133
資産の部　合計	13,932,020	負債及び正味財産　合計	13,932,020

損益計算書

令和4年度 損益計算書

自 令和4年 4月 1日
至 令和5年 3月31日

Ⅰ 収益の部		
ＪＡＣ年会費収入	680,000	
赤十字飛行隊年会費収入	1,350,000	
大利根飛行場事業収入	11,001,330	
日本赤十字社 補助金収入	800,000	
受取利息	153	
雑収入	309,834	14,141,317
Ⅱ 費用の部		
1. 事業費		
大利根飛行場事業費	3,928,764	
三保飛行場事業費	386,475	
会報発行事業費	669,296	
赤十字飛行隊運営事業費	830,496	
飛行クラブ運営費	72,321	5,887,352
2. 管理費		
給与手当	5,540,600	
福利厚生費	707,856	
旅費交通費	231,900	
通信費	191,632	
会議費	50,316	
租税公課	565,976	
新聞図書費	20,474	
消耗品費	273,485	
賃借料	877,800	
諸会費	40,000	
雑費	672,161	9,172,200
経常利益		−918,235
当期利益		−918,235
繰越利益		12,866,368
剰余金		11,948,133

日本飛行連盟の飛行場

大利根飛行場

茨城県稲敷郡河内町・利根川河川敷

Airport

大分前から日本も亜熱帯気象みたいになってきた。大雨や台風なども予想外の時期に来たりして始末に悪い。5月の台風対策で、大利根飛行場は少ない人数と時間との闘いの中での避難作業となり大変でした。ただ、ランウエイが冠水とまでにはならなかったのがせめてもの救いでした。

航空大学目指せ!エアラインパイロット

皆さんご存じの航空大学校は、日本唯一の公的なエアラインパイロットの養成機関です。これまでに数多くの卒業生がプロパイロットとして活躍しています。4年生大学の2年修了、短期大学、高等専門学校卒業、専修学校の専門課程を修了し専門士の称号を付与された人などを対象に男女問わず門戸が開かれています。お知り合いの方でパイロットを目指している方や、ご興味のある方がいらしたら是非教えてあげて下さい。(令和6年度の学生募集は締め切られていますが、次の年の参考に航大のホームページを覗いてみてください)

出願に関するお問い合わせ先

独立行政法人 **航空大学校教務課**　〒880-8580　宮崎市大字赤江字飛江田652-2　TEL0985-51-1324
ホームページ　**https://www.kouku-dai.ac.jp/**
ホームページでは学内情報、入試関係などが掲載されています。

学校案内はパソコン、スマホから請求ができます。